



大自在

新聞を開くのは慌ただしい朝ではなく夕方。学校から帰宅し、おやつを口にするくつろいだ時間。1面を見て、社会面へ。将棋欄に目を通し、ページを前へとめくつ

ていく▼1年前に史上最年少でプロ入りするやデビュー戦から29連勝。公式戦新記録を打ち立てた中学3年生、将棋の藤井聡太四段の日常という。子ども向け新聞を経て小学4年生ごろから一般紙の愛読者。パソコンやスマートフォンも使いこなすが、ニュースの情報源は新聞に頼る▼「新聞にはさまざまなニュースが隣り合わせに載っていて、どれが大事なのかを自然と考えるようになる」。盤面全体を見渡し急所を見極める将棋とも通じるところがある。今春本紙に載ったインタビューでは、そんなことも語っていた▼残念ながら藤井四段のような若者は今の日本では少数派だ。本社の加盟の日本世論調査会が先月実施した調査によると、「ニュースの主な情報源」に60代以上の8割近くが新聞を挙げた一方で、30代以下は約2割にとどまった▼それでも「信頼度が最も高い情報源」には若年層の多くも新聞を挙げる。情報の正確さはもちろん、社会の隅を照らす広い視野、公平・中立への配慮、健全な批評精神、痛みへの共感…。そうした送り手の姿勢を感じてくれてこそ信頼だろう▼国の針路を決める衆院選のさなか、「新聞週間」が始まった。今年の代表標語は「新聞で見分けるフェイク知るファクト」。情報があふれる時代に、読者との命綱である信頼がより重みを増している。果たすべき役割を改めて自覚したい。

2017.10.16

2017年10月16日 朝刊

①藤井聡太4段がいつ新聞を読んでいるか、分かるところに線を引きましょう。

②藤井聡太4段が指摘する新聞の魅力は、どんなことでしょうか。

[

]

③今年の新聞週間代表標語は、何でしょうか。

[

]

年 組 名前

(小学校高学年・中学校・高校 総合)